

令和４年度 多摩市教育委員会事務点検評価 (令和３年度事務対象) 実施結果の概要

教育委員会事務点検評価とは・・・

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、教育委員会が１年間に行った事務がどのようなものであったか、教育委員会が自ら振り返り、評価をする取り組みです。この評価結果を踏まえて、今後の教育委員会の事務をより良いものにしていきます。

事務点検評価の手法

評価する事業は、「第二次多摩市教育振興プラン」に基づいて実施している 74 事業の中から選定した 10 事業です。選定に当たっては、第二次教育振興プランに掲げる 5 つの基本施策それぞれの中から事業が選ばれるように考慮しています。

また、このうち 5 事業（【6】から【10】）は、令和 2 年度事務点検評価において評価した事業から選定し、再評価することにより、事務点検評価の結果がその後の事業実施に反映されているか確認します。

事務点検評価の手順

4 月	前年度（令和 3 年度）に実施した各事業を所管課で評価※ 教育委員が評価する事業を、教育長・教育委員により 10 事業選定
5 月～ 7 月	教育長・教育委員が分担して各事業を評価、教育長・教育委員間で協議
8 月	学識経験者（2 名）が 10 事業に意見・提言
8 月	学識経験者と教育長・教育委員の意見交換
10 月～11 月	報告書を教育委員会の会議で議決、報告書の作成・公表

※所管課による実施評価では、全 74 事業のうち、A 評価（取り組み目標を達成した）事業は 45 事業（61％）、B 評価（おおむね取り組み目標を達成した）事業は 26 事業（35％）、C 評価（取り組み目標に達しなかった）事業は 2 事業（3％）、D 評価（取り組み目標を大きく下回った、実施できなかった）事業は 1 事業でした。

本紙の見方

本紙は、令和4年度事務点検評価対象事業の10事業について、報告書の内容を要約し、令和3年度の取り組みの概要、教育長・教育委員の評価及び学識経験者の意見提言、意見交換を踏まえた教育委員会としての今後の事業実施の方向性を掲載しました。教育長・教育委員による評価の指標は以下のとおりです。

事業の評価の指標

【目標の達成状況】

- A 取り組み目標を達成した
- B おおむね取り組み目標を達成した
- C 取り組み目標に達しなかった
- D 取り組み目標を大きく下回った、実施できなかった

【今後の方向性】

- A 拡大して取り組んでいく
- B 現状のとおり取り組む
- C 見直した上で継続する
- D 取りやめる

【1】英語教育の推進、グローバル人材の育成 事業の評価 目標の達成状況：A 今後の方向性：A

概要	英語4技能テスト「GTEC」の市内中学校3年生の平均得点は、全国参考値との比較では4技能全ての数値で上回り、多摩市の生徒の英語力は総合的に高いレベルに到達している結果が得られました。「話すこと」の得点は、他の技能と比較して全国参考値との差が小さいため、タブレット端末を活用した講師との1対1のオンライン英会話の実施、小・中学校合同の英語教育の研修会を通して「話す力」の育成を図りました。
評価	多摩市の英語の学力は高いレベルにあるが、「話すこと」に課題があると考えられるので、「話す力」の育成を重点とする必要がある。立川に来年1月にオープン予定のTOKYO GLOBAL GATEWAY等の活用により「話す力」の育成に取り組むとともに、小中学校の連続性のある指導と教師の指導力の向上、指導方法の改善に取り組み、児童・生徒の学習意欲を高め、児童・生徒の総合的な英語力を高める必要がある。
方向性	ICT環境を生かしながら、デジタル教科書の効果的な活用及びオンライン英会話の継続的、効果的な実施等を進め、英語によるコミュニケーション能力の土台となる「話す力」の育成に引き続き取り組みます。また、多様な教員研修を実施し、「話す力」の育成に向けた教員の指導力の向上に取り組みます。【教育指導課】

【2】キャリア教育、体験学習の充実 事業の評価 目標の達成状況：C 今後の方向性：A

概要	コロナの影響で、市内全中学校9校の内、3校で市内事業所での職場体験を実施しました。残りの6校では、企業の方や地域の方をゲストティーチャーとして招聘した出前授業を行うなど、工夫しながらキャリア教育に取り組みました。
評価	職場体験ではコロナ禍であっても時期や場所を選び工夫したことによって、少数の生徒とはなったが、職場体験を実施できていた。「職場」や「体験」を幅広くかつ柔軟に捉えて、コロナ禍であっても一定の体験学習ができるよう、地域との連携を元にした新たな学びの方法や場所を今から構築して備える必要がある。 ICTを活用したキャリア教育や体験教育の更なる充実を期待したい。
方向性	多摩市内の各事業所や公共機関と連携し、コロナ禍においても全中学校の職場体験を継続させていくために、教育委員会が主導的に職場体験の教育的意義を受け入れ企業に伝えていきます。【教育指導課】 社会教育施設である公民館や図書館の役割を知ってもらうとともに、社会性や職業観を育む機会として、引き続き中学校職場体験を受け入れます。【公民館・図書館】

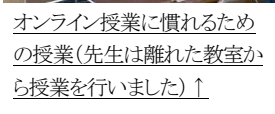
【3】部活動の環境整備 事業の評価 目標の達成状況：B 今後の方向性：C

概要	指導内容の充実、生徒の安全確保、教員の長時間勤務の解消の観点から、専門的な技術指導に加えて大会引率ができる部活動指導員を配置、さらに顧問教員の負担軽減のために部活動補助員を配置し、指導体制の充実を図りました。
評価	各校のホームページ上で、部活動の活動方針や計画だけでなく活動の実績を積極的に公表する必要がある。それが保護者・地域の理解と協力を得ることにつながると考える。顧問の負担軽減を部活動指導員の配置で解決するというやり方では限界があることから、抜本的な解決策を検討する必要がある。
方向性	学校が保護者・地域との連携を図りながら、理解と協力を得て部活動を実施することができるよう、部活動の活動方針、活動計画、活動実績等をホームページ等で公表することを学校に指導・助言して徹底し、適正な部活動の運営に向けた情報公開を進めます。地域のスポーツ団体や民間企業、大学等との連携・協力の中で外部指導員の確保を図るとともに、今後の部活動の地域移行を見据え、市長部局とも連携し、持続可能な部活動の運営についての検討を進めます。【教育指導課】



部活動指導員による指導の様子↑

【4】学校情報環境整備事業（ICT事業）の充実 事業の評価 目標の達成状況：A 今後の方向性：A

概要		ICT支援員の派遣やヘルプデスクによる問い合わせ対応、オンライン授業を行うための研修会をWeb会議上で開催するなど、ICT機器・環境の適切な管理及び教育用ICT機器を効果的に活用してもらうための支援を実施しました。
評価	 オンライン授業に慣れるための授業(先生は離れた教室から授業を行いました)↑	市立学校全体でGIGAスクール構想の推進が図られ、校務や学習場面、新型コロナウイルス感染症予防の健康観察、保護者との連絡・連携、オンライン学習などでの具体的な利活用が図られていた。コロナ禍により、加速した施策をよく捕捉し各学校や教職員のICTスキルアップや「誰一人取り残さない」という考えに立った家庭でのオンライン学習やサテライト学習まで含めた幅広い学校・市民ニーズに応えた。
方向性		児童・生徒及び教職員が安全かつ効果的にICT機器を活用できるよう、セキュリティ対策を施したシステムの維持、セキュリティ事故を予防する視点を含めた運用に加え、使用者の知識や意識を高めるための情報共有や研修等の支援を継続的に実施していきます。【教育指導課】

【5】学習情報の効果的な発信 事業の評価 目標の達成状況：A 今後の方向性：A

概要	公民館通信・やまばと通信・教育委員会だより等の広報誌のほか、図書館ホームページ、多摩市公式SNS、NDC擬人化キャラクターの活用、他課との連携企画展示など、様々な手法を活用した積極的な情報発信を行いました。
評価	様々な手法で未利用者へのアプローチを工夫して情報を発信した。図書館ホームページから簡単に講演会の申込みフォームにアクセスできる構成にするなど利便性の向上も図った。 今後もさらなる情報発信で市民への周知を広げ、来館者や講座・講演会への参加者が増える様に工夫して欲しい。
方向性	「公民館通信」や「多摩市教育委員会だより」のほか、ホームページやTwitter等のICTも活用して公民館が開催する講座やイベント情報を発信していきます。【公民館】 引き続き関係課と連携し、地域課題解決のための図書館のテーマ展示を実施するとともに、併せて関係課に令和5年度に開館する中央図書館内の市民活動室等の活用を働きかけ、市民への情報提供をより充実させます。【図書館】

【6】授業改善推進プランに基づく授業の実施 事業の評価 目標達成状況：A 今後の方向性：A

概要	授業改善推進プランの作成・実施に向け、指導主事による指導・助言を実施しました。また、アプリ版「東京ベーシック・ドリル」等を活用した補充的な学習や、「地域未来塾」における放課後等の補習教室などを通じた教科の基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図りました。	
評価	前回の点検評価を生かした取り組みがなされているが、授業改善にゴールはないので、多摩市の教員や教育委員会は不断の努力が必要である。教員それぞれの得意分野を伸ばし、課題を克服するためにもアンケート結果やデータの活用により結果や成果を「見える化」して授業改善に資することも試行したい。	地域未来塾 英検対策講座の様子↑
方向性	主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業改善推進プランの作成・実施に向け、指導主事による学校訪問における指導・助言や授業力アップデート研修等の充実を図り、教員一人ひとりの授業力の向上を図っていきます。ICT(タブレット端末)を活用した学習指導の充実に取り組み、児童・生徒一人ひとりの学習状況の可視化を図り、個別最適化された学びと協働的な学びの実現に向けて、授業改善を推進します。【教育指導課】	

【7】ESDによる資質、能力の育成 事業の評価 目標達成状況：A 今後の方向性：A

概要	「ESDを通して育成する資質・能力」について、ESD実践研修のみならず、様々な職層の研修において共有しました。多摩市子どもみらい会議は天候不良により集合の開催はできなかったものの、中学校区ごとで実施し、それぞれで多摩市への提言を考えました。	
評価	ESD実践研修の他、様々な職層の教員に対し研修を行った。今後は、ESDを通して学んだことを発信する事により地域の大人や社会にどう影響を与えることができるか次の取り組みを考えることが必要だと考える。 天候不良により今年度の子どもみらい会議は全体での開催ができなかったが、あらゆる状況を考えて対策を講じて欲しい。	新任・転任管理職対象ESD研修↑
方向性	総合的な学習の時間を中心にSDGsを踏まえたESDを充実・発展していきます。 これまでの各学校のESDの取り組みをSDGsに照らし合わせて見直すとともに、更なるESDの充実を図るため、動画の配信等も含め、あらゆる職層の教員の研修機会の拡充に取り組みます。【教育指導課】	

【8】郷土の歴史や文化財に対する学習機会の充実 事業の評価 目標の達成状況：B 今後の方向性：A

概要	令和4年4月1日の「多摩ふるさと資料館」開館に向けた準備を実施しました。 デジタルアーカイブを活用した社会科見学対応や、多摩市公式 YouTube チャンネル等での動画配信等でも地域の歴史や文化財について学べるコンテンツを積極的に提供しました。 日野市との連携事業「たま学びテラス」一環として、日野市学芸員を講師に招き、2市の史跡を訪ねる「まち歩き」を実施しました。	
評価	出前授業は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったが、図書館との連携を深め、デジタルアーカイブや YouTube を活用した学びの発信は評価できる。 多摩ふるさと資料館の開館を契機に、市民が興味・関心を深めることができるよう、今まで以上の内容の充実、新しい視点でアイデアを生かした取り組みを期待したい。デジタルコンテンツなどを活用し、多摩市民がいつでもどこでも広く学びたい時に学べる環境を充実させることが重要である。 多摩市・日野市の連携事業「たま学びテラス」が初めて開催できたが、この事業にとらわれず、今まで培ってきたつながりを生かし、関係機関との連携を一層深化させ活動の充実を目指してほしい。	復元された旧小泉家住宅↑ (多摩ふるさと資料館内に展示)
方向性	多摩ふるさと資料館を活用して地域の伝統や歴史に対する市民理解の促進に努め、郷土の文化を後世に継承するための取り組みを図書館、公民館、多摩市文化振興財団、東京都埋蔵文化財センター等と連携しながら進めていきます。また、学校教育における活用方法についても検討していきます。【教育振興課】 地域の歴史・文化の理解を深め、地域への愛着の醸成を目的に郷土史講座を実施します。日野市との連携も引き続き行い両市民の交流を図るとともに ICT を活用した取り組みも行っていきます。【公民館】	

【9】学校開放による団体、地域活動等の支援 事業の評価 目標の達成状況：A 今後の方向性：B

概要	学校開放の再開にあたって、利用団体が安全に活動できるよう「新型コロナウイルス感染症予防のための施設使用ルール」を作成・配布するとともに利用団体が施設を使用する際の感染予防対策の一助として「新型コロナウイルス感染症予防のためのチェックリスト」を作成しました。 学校開放活動の環境改善としての改修工事にあたっては、丁寧な周知を図るとともに、工事スケジュールに影響を与えない範囲で可能な限り長く利用いただけるよう配慮しました。	
評価	利用団体に向けた新しい使用ルールを分かりやすいチェックリスト様式に整えた工夫は評価できる。状況が刻一刻と変化する中でも、その都度市民への配慮ある情報提供と環境整備に努めた。	
方向性	今後も学校施設を広く開放し、市民の学習・文化・スポーツ活動の振興に資する取り組みを進めるとともに、利用者が本事業への参画意識を高めていただけるよう積極的に働きかけていきます。 学校施設利用団体が部活動の支援等に資することができるか、学校や利用団体を検討していきます。【教育振興課】	

【10】学校評価を生かした学校運営の向上 事業の評価 目標の達成状況：B 今後の方向性：C

概要	年度当初の校長会等を通して、学校の重点目標や各分掌での取組内容等を学校関係者評価に携わる学校関係者（学校運営協議会委員等）に年間通して説明する必要性を校長に指導しました。また、学校評価の意義や形態、改善サイクル、学校運営協議会との関連について教職員に周知徹底するよう、校長に指導しました。	
評価	「学校評価書」を作成する体制はできたが、作成した学校評価書を学校運営においてどう活かしていくのが今後の課題である。学校評価書の内容が学校、地域、家庭で広く共有されていけば、学校と地域が一体となった学校運営の向上が期待できる。まずは各校のホームページで公表し、学校、家庭、地域との関わり合いを深めていくことが必要である。	
方向性	学校評価書を通して学校・家庭・地域・行政がつながりをもち、児童・生徒にとってよりよい学校教育の実現を目指すため、適切な学校評価書の作成、成果や課題、改善内容を確実に周知することの2点の徹底を図ります。 学校評価書のホームページへの公表を進めたり、次年度の教育課程に生かしたりするなど、学校評価書作成と活用の意義を踏まえた学校運営の向上を図るよう、学校への指導・助言を進めます。【教育指導課】	

「令和4年度多摩市教育委員会事務点検評価報告書」は、行政資料室、市内各図書館、市公式ホームページ (<http://www.city.tama.lg.jp/0000001676/.html>) でご覧いただけます。